

ペットボトルを用いた心肺蘇生法講習会に関する報告

1. 講習会テーマ ASUKAモデルと、救える命を救うことの大切さを考える
2. 講師 日本体育大学保健医療学部 救急医療学科 鈴木健介准教授
3. 開催日時 平成30年10月12日(金)
18時00分～20時30分
(前半：講演、後半：心肺蘇生法)
4. 開催場所 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟B階記念講堂
5. 開催目的 ASUKAモデルの講演後、ペットボトルを用いた心肺蘇生法講習会の実施
6. 講習会内容 主な講習内容は次の通り
(1)ASUKAモデルの講演後、鈴木准教授の講義
(2)2人組で呼吸の確認
(3)呼吸の演技をして呼吸の確認
(4)ペットボトルを用いた胸骨圧迫

7. ASUKAモデルについて

2011年9月、さいたま市の小学校で6年生の桐田明日香さんが駅伝の課外練習中に倒れ、死亡するという事故が発生。検証の結果、明日香さんが倒れた直後に「けいれん」や死戦期呼吸と呼ばれる「ゆっくりとあえぐような呼吸」があったために、教師らは心臓が止まっているとは思わずに、校内にあったAEDを使わなかったことが判明した。この事故の反省をふまえ、さいたま市教育委員会とはご遺族と共に、「体育活動時等における事故対応テキスト：ASUKAモデル」を作成した。

本講習会の前に明日香さんの母、寿子様と当時のさいたま市教育委員長でいらっしゃった桐淵博様にご講演をいただいた。

8. ペットボトルを用いた心肺蘇生法講習会について

一般社団法人ファストエイドは、心肺蘇生訓練をペットボトルの空き容器で簡単に実施できるキット『CPR TRAINING BOTTLE』を開発。『CPR TRAINING BOTTLE』は、CPRの際に胸を押すのに必要な力が、空のペットボトルを押す力とほとんど同じであることに着目した世界初のCPR訓練用キットである。

9. 所見

今回ASUKAモデルの講演後にペットボトルを用いた心肺蘇生法講習会を行った。世界初のCPR訓練用キット『CPR TRAINING BOTTLE』を用いての心肺蘇生法講習会は、本学としても初の試みであった。空気で膨らませる従来の訓練人形と違って準備に時間もかからず実習時間を多く取れることが好印象であった。また、説明付きの動画に合わせて胸骨圧迫を実施するため、お手本を見ながら胸骨圧迫が出来ることから受講生一人一人の胸骨圧迫の習熟度が高く感じた。シート上に『CPR TRAINING BOTTLE』を置いて胸骨圧迫を行う際に、補助者がペットボトルを固定する必要があるため、実施者の近くでリアルタイムフィードバックをかけることができていた。お互いの胸骨圧迫を見て評価することもできるため、コミュニケーションがとりやすく手技の修正もしやすい印象であった。

講義の中で「救急車が到着する平均時間は8.5分。その時間は医者も看護師も救急救命士すら何もできない時間帯である。そのため資格の有無に関わらず、近くにいる人間が救命処置をしなければならない。」と話があり、ASUKAモデルの講演会では桐田寿子様も「人が倒れたときに、そばにいる人が何をすることが大切だと思います。」と述べられていた。そのためには講習を受けることが重要だとし、少しでも多くの人に積極的に心肺蘇生法の普及が望まれる。『CPR TRAINING BOTTLE』は日常にあるペットボトルを活用するため、手軽に心肺蘇生法が体験できることが今後の普及に大きな良い影響を与えていく可能性が感じられた。

また、ASUKAモデルは学校の危機管理マニュアル

であることから将来教員を志望する学生や部活動関連の学生が多く来場していた。桐田寿子様、桐淵博様のご講演と鈴木准教授のペットボトルを用いた心肺蘇生法講習会により、改めて命の尊さやそれを守る事の意義、目の前で人が倒れたら自分は何ができるのかを考える良い機会になったのではないかと考える。今回の講習会に参加した学生たちが、将来自分の勤務する学校で『CPR TRAINING BOTTLE』を用いての心肺蘇生法講習を展開していけるようなきっかけにもなる講習会であった。



10. 講習会風景



(報告：鈴木健介)